

【別紙様式3】

再評価実施事業調書

番号	1	事業名	社会資本整備 総合交付金事業		路線又は箇所名等		国道410号 久留里馬来田バイパス		
事業所管課		道路整備課		事業主体		千葉県			
事業化年度	昭和 60年度	用地着手年度	昭和 60年度	工事着手年度 工事終了(認可)年度	平成元年度 平成35年度	再評価の理由	再々評価		
費用便益比 B/C	2.6	総費用	253 億円	総便益	660 億円	基準年	平成 25年度	供用開始 年度	平成 35年度

【事業概要】

国道410号は、館山市から木更津市に至る総延長約114kmの一般国道であり、起点の国道127号から、南房総市、鴨川市、君津市を経由して木更津市の国道16号に至る、南房総地域を縦断する重要な幹線道路である。

久留里馬来田バイパスは、圏央道・木更津東ICにアクセスするとともに、君津市久留里地先や木更津市馬来田地先市街の交通安全性の向上、南房総地域における観光振興などに寄与するアクセス性向上を目的としています。

- ・総事業費：173億円
- ・事業延長：L=15.7km
- ・事業期間：昭和60年～平成35年

【事業の進捗状況】

【平成25年度末の進捗率（予定）】

事業費ベース：76%、用地（面積ベース）：90%

【社会経済情勢等】

- ・国道410号久留里馬来田バイパス計画区間は、緊急輸送道路（1次路線）に指定されている。
- ・国道410号久留里馬来田バイパス計画区間における現道の状況
 - ①君津市久留里市場地先の日交通量（H22セガ）は、平日8,690台/日となっている。
 - ②久留里区間では、屈曲かつ幅員狭小区間があるほか、通学路に指定されている区間において歩道の未整備区間があるため、歩行に危険な状況となっている。
 - ③交通事故は、久留里市街周辺で毎年約5～10件（H19～H23年）発生している。
- ・南房総地域では、平成24年から25年の夏期観光シーズンにおける観光客が約5%増加しており、久留里馬来田バイパスの整備により、圏央道と連携した南房総地域におけるアクセス性の向上が期待される。

【対応方針（案）】

継 続

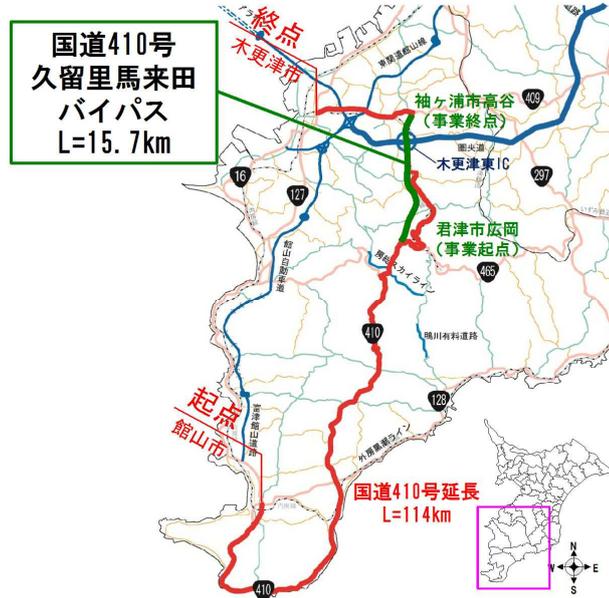
費用便益比（B/C）は2.6であり、費用対効果が見込まれること、整備効果として、緊急輸送道路ネットワークとしての信頼性の向上、交通の分散により現道市街地を中心とした安全性の向上、緊急車両等を含む所要時間の短縮、快適で安全な走行空間が確保され、南房総地域へのアクセス性の向上が期待されることから事業を継続し効果の早期発現を目指したい。

【別紙様式 4】

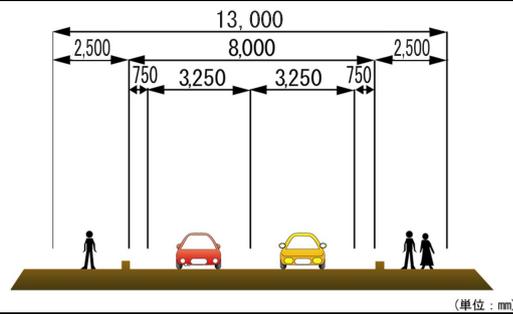
事業概要図

番号	1	事業名	社会資本整備 総合交付金事業	路線又は箇所名等	国道 410 号 久留里馬来田バイパス
----	---	-----	-------------------	----------	------------------------

位置図



標準断面図



平面図



【別紙様式5】

再々評価事業に関する調書

番 号	1	事 業 名	社会資本整備 総合交付金事業	路線又は箇所名等	国道410号 久留里馬来田バイパス
事業化年度	昭和60年度	用地着手年度	昭和60年度	工事着手年度	平成元年度
【再評価の概要】					
再評価実施年度 (基準年)	平成20年度	供用開始年度	平成27年度	対応方針	継続
B/C	2.8	総費用	161億円	総便益	453億円
再評価時の委員会の意見及び当時の状況 継続することが妥当である。					
再評価時の進捗状況及び再評価時想定の5年後の進捗状況					
	計 画	進捗状況(H20)	5年後の想定進捗状況		
全体事業費	127.1億円	69.4%	—		
用地取得面積	302,434 m ²	90.5%	—		
供用面積(延長)	10.7km	5.1km	7.0km		
【再々評価の概要】					
再評価実施年度 (基準年)	平成25年度	供用開始年度	平成35年度	対応方針	継続
B/C	2.6	総費用	253億円	総便益	660億円
現在の進捗状況					
	計 画	進捗状況(H25)			
全体事業費	173.0億円	75.5%			
用地取得面積	388,339 m ²	89.6%			
供用面積(延長)	15.7km	10.5km			
再評価後の経過及び処理状況	平成20年度 再評価(継続が妥当である) 平成25年4月 圏央道延伸(木更津東IC~東金JCT間供用) 平成25年7月 久留里工区の一部 1.9km 供用(計10.5km 供用)				